

2024年1月1日発行(毎月1回1日)

三田評論

2024 **1** No.1284

新春対談

「慶應義塾の目的」へと向かうために



慶應義塾

の不調を持ちながらも元気に二名の参加、日吉三田の諸々の昔話に花を咲かせた。

また、会の前に慶應義塾史展示館を見学し、その素晴らしい歴史の一端を改めて認識した。また来年も元気で再会を約し、散会した。

当日の参加者は次のとおり。
有吉洋、伊能祥子、宇佐見和彦、岸田啓一、嶋田正稔、鈴木一弘、名取正紘、南部滋子、花崎良政、宮田和彦、山田巖、山本興治。

不動産鑑定士三田会 十一月十七日午後六時半より、銀座・交詢社にて開催。第三回総会、懇親会を行う。

コロナの収束を待って、三年ぶりに慶應義塾や他の専門職三田会、不動産鑑定士稲門会など、他団体を招待し、通常の会合形式に戻った。招待客を入れて約七〇人の参加者を得た。熊本、大阪、栃木、北海道など地方か



不動産鑑定士三田会

らの会員参加も見られ、盛況な集会となった。

岩指良和幹事（監事代行）の議長司会により始まり、緒方瑞穂会長挨拶後、会計報告を満場一致で可決した。

続いて新井香里幹事の司会によって、懇親会が始まった。緒方会長挨拶、大友正敏塾員センター部長の塾近況報告、不動産鑑定制度推進議員連盟小林茂樹衆議院議員、三田法曹会早稲本和徳幹事長の各挨拶のあと、税理士三田会鈴木雅博会長の乾杯

を経て懇親へ移った。

懇親会では新入会員の紹介、遠方からの出席者の紹介、不動産鑑定士稲門会からの挨拶も得て、チャリデーキング部による指揮で「若き血」を斉唱した。

当日の参加者は次のとおり。
相庭康男、阿部隆志、新井香里、池田守、石井恒男、稲野邊俊、岩指良和、遠藤真司、沖達也、緒方瑞穂、岡村淑子、小山内彩乃、小澤孝明、尾藤哲、小坂一史、小林達哉、小林俊宏、金子郁子、川邊節子、橋田万里恵、嶋田謙吉、島田雛子、高原慎司、新橋信仁、杉浦綾子、高橋敏行、武部奈都美、田代務、田中宏一、田中秀夫、田村直之、津留伴一、土井結香、流田有啓、西脇正樹、馬場佳子、伴野琢也、平井聡一郎、船木久義、堀内智堀内学郎、丸島滉平、水野雅夫、村田良一、山北潔、吉田直介、吉田稔。



慶芝会三田会

慶芝会三田会 十一月二十一日、三田キャンパス・ファカルティクラブにて開催。第三〇回を行う。

塾生（一一八回生）から塾員（五六回生）までの計七二名が参加した。会の準備を牽引した青木一浩君司会の下、「塾歌」斉唱。その後、中尾誠男会長の開会挨拶があった。

会長は、孫正義社長の講演会を例に、①IT等の新しい潮流に触れ、それを会得し自分の技術言葉にすることの大切さと

②各業界に広がる塾員ネットワーク活用の必要性を講演された。

その後、来賓の小林正道芝学園理事長（兼増上寺執事長）による講話を伺った。乾杯では二〇二三年の塾野球部躍進（高校・大学日本一）を支えてきた応援指導部OBである池上讓治君よりご発声があり、里田益弘副会長より慶芝会員が一、〇八〇名に達したことが報告された。慶芝会初参加の一七名との懇親に加え、旧友との再会は互いに良い刺激となり、六〇余年もの世代を超えた交流を楽しめたように感じられた。余興では、塾グ

ッズやご提供品の福引や応援指導部によるスベシャルメドレーが行われ、ファカルティクラブ、原田支配人によるご尽力の下、楽しい時間はあっという間に過ぎ去った。

最後は慶芝会・芝稲門会による慶早合同大会での再会を誓い、芝学園校歌とともにお開きとした。

郵研三田クラブ 十月二十八日午後四時半より、三田キャンパス・ファカルティクラブにて開催。二〇二三年総会懇親会を行う。会員二二名が参加。今年にはコロナ禍後、四年振りの会であつ



郵研三田クラブ

た。

乗田君の受付、菊池君の司会により総会から開始された。永井会長代理より前年度の事業報告、田中前年度会計役員、久野

会計監査役員より会計及び会計監査の報告が行われ、了承された。

総会、記念撮影の後、引き続き、鈴木君の乾杯発声により懇親会が行われた。その後、しばしの懇談の後、田中君の中締めで、楽しい会はお開きとなった。当日の参加者は次のとおり。

伊藤眞、乙竹伸一、菊池博行、久野憲輔、西條也寸志、坂倉豊、正田幸弘、鈴木宏治、田中成欣、永井正保、乗田広秋、的場嘉彦。

「三田会だより」投稿について

このコーナーは慶應義塾の同窓会である各三田会の会合を掲載するものです（リモート開催による投稿も受け付けます）。その他の会合につきましては掲載いたしかねます。投稿に際しては以下に沿ってお願いします。

◆投稿原稿はEメールでお送り下さい。手書き原稿を郵送される場合は楷書で原稿用紙に縦書きでお願いします。

◆原稿には、開催日時・場所を明記し、会の内容のごく簡略にお願いします。長文は編集部にて調整させていただきます。参

加者が多い場合は、名前を割愛させていただきます。会のご連絡先の記載についてはご遠慮下さい。

◆ゲストの講演内容等を詳細に記した原稿、特定の個人のみを写した写真はご遠慮下さい。これらに合わない場合は掲載

できないことがあります。なお、編集、掲載月についてはお任せ下さい。原稿、写真は原則として返却いたしません。

送付先：〒108-8346 東京都港区三田二一九-130 慶應義塾「三田評論」編集部
E-mail: m-hyoron@adst.keio.ac.jp